

# 高等学校「家庭基礎」における保育領域のカリキュラム研究

専攻 教育実践高度化専攻

コース 授業実践リーダー

学籍番号 P09022G

氏名 牛房 貴代

## 1. 問題の所在と研究の目的

現行の学習指導要領から「家庭基礎」が導入された。現任校のある沖縄では、「家庭総合」から「家庭基礎」に移行する学校が増えており、現任校でも平成 22 年度から「家庭基礎」を扱うこととなった。「家庭基礎」は、「家庭総合」と同じ内容を半分の時間で教えなければならないので、授業内容を精選しカリキュラムを作成する必要がある。本研究では、その中でも、次期学習指導要領で保育体験が必須となる保育領域に焦点をあてることとした。これは、近年の少子化・核家族化の進行で、子育てに悩みを抱えている親が増えているため、これからの保育には子育て支援が必要と感じたためである。このことから、「家庭基礎」保育領域に保育体験や子育て支援を盛り込んだカリキュラムを作成することを本研究の目的とする。

## 2. 方法

保育体験実習を他県よりもいち早く取り入れている兵庫県内の高等学校家庭科教員（104名）および兵庫県加東市内の保育園や幼稚園の保護者（456 家庭）を対象に、高等学校「家庭基礎」における保育領域のカリキュラムについてのアンケート調査を行った。また、兵庫県立社高等学校 1 年生（1 年生の 3 クラス 115 名）に保育学習に関する事前アンケート調査を行った。これらの結果を踏まえ、保育領域の 10 時間分の指導計画およびワークシートを作成する。

## 3. 結果

### (1) 家庭科教師や保護者へのアンケート結果

兵庫県内の高等学校家庭科教員は、「親の役割」、「親になる過程」および「子どもに会いに行こう」の項目について高く評価しており、「子どもの権利や福祉サービス」、「子どもを取り巻く社会の現状」や「乳幼児期の生活習慣」、「子どもの家庭内事故」の項目について評価が低かった。このことから、子どもを持つことの意味や子育ての意味について理解させたり、乳幼児とのふれあいや交流

を深めさせたりすることが重要だと考えていることが分かった。また、保護者は、「親の役割」、「親になる過程」および「子どもに会いに行こう」の項目について高く評価しており、「子どもの権利や福祉サービス」、「乳幼児の生活習慣」および「子どもにとっての遊び」の項目について評価が低かった。このことから、子どもを持つことや子育ての意味について理解させたり、乳幼児とのふれあいや交流を深めさせたいと考えていることが分かった。従来の授業では、「子どもの心身の発達」、「乳幼児期の生活習慣」や「子どもにとっての遊び」を中心に教えていたがアンケートの結果を踏まえ「親の役割や責任」、「ふれあい育児体験」を重点的に取り入れていきたい。

### (2) 生徒へのアンケート結果

自分自身のことについて、将来「結婚したい」、「子どもを持ちたい」と考えている生徒が 70% を超えており、「子どもを持ちたい」と答えた生徒に子どもを持つことに対しての理由を尋ねたところ、楽しそう（27%）、子どもが好き（20%）、かわいい（19%）と肯定的な意見がみられた。しかし、乳幼児を育てることについて、おもしろい、楽しい、幸せなどのプラスイメージ（26%）よりもめんどろ、いそがしい、大変といったマイナスイメージ（59%）を持っている生徒が多い結果となった。このことから、「ふれあい育児体験」で、園児とペアリングを行い、一緒にお弁当を食べたり、遊ぶことで、乳幼児を育てることは大変だが、楽しみや喜びがあることを体験して欲しいと考えている。

家庭科の保育学習内容については、興味がある、どちらかというに興味があるを含めるとほとんどの項目について 60% を超えて興味があるとしており、保育学習に対して比較的高い関心を持っていることが分かった。中でも「子育ての親の役割や責任」の項目が高く、「子どもの体や心の発達」の項目が低い結果となった。興味の高かった「子育ての親の役割や責任」については、理解を

深める授業内容にし、興味の低かった「子どもの体や心の発達」については、興味や関心を持たせるような授業内容にしたい。

### (3) 開発した指導計画

みんなで子どもを育てよう (全10時間)

#### 1. 子どもとのふれあいから学ぶ (5時間)

- (1) 子どもの発達と生活
- (2) 子どもの生活習慣と遊び
- (3) 小さな子どもとふれあう機会
- (4) ふれあい育児体験

#### 2. 親として共に育つ(2時間)

- (1) 子どもを生むということ
- (2) 親になることと子育て

#### 3. 健やかに育つ環境づくり (3時間)

- (1) 子育て支援
- (2) 子どもの福祉
- (3) 将来の子育て支援に生かしていこう

本題材は、大きく「子どもとのふれあいから学ぶ」、「親として共に育つ」、「健やかに育つ環境づくり」の3次構成とする。これは、子ども・親・社会へと視点の広がりを意識した構成となっている。

第1次の「子どもとのふれあいから学ぶ」では、ふれあい育児体験をメインの学習とし、子どもとかわるごとの楽しみや喜びを得るとともに、子どものかかわり方の理解を深めさせたい。そのためには、事前授業で幼稚園の施設の特徴や交流する子ども達の特徴を理解させ、子どもとのコミュニケーションの取り方をしっかりと学ばせる必要がある。しかし、「子どもの体や心の発達」については他の項目に比べると興味が低いので、生徒に興味・関心の持てるような工夫をしていきたい。「子どもの体や心の発達」は、乳幼児とのふれあい育児体験をするときに必要になることを伝え、なぜ子どもの体や心の発達を学ぶのかという目的意識を持たせるとともに、視聴覚教材を用い、できるだけ多くの事例を生徒に話しながら、子どもへのイメージを膨らませたい。

第2次の「親として共に育つ」では、親の役割や責任について学習する。生徒のアンケートより「子どもを生むということ」についての興味が高かったことから、結婚や子どもを持つことについてのアンケート調査や資料などを読ませ、グループで話し合いをさせて自分の意見をまとめるこ

とで理解を深めさせる。また、「親になることと子育て」については、子育てのスタイルや父親の育児参加についての資料を読ませ、子育てについて自分の意見をまとめさせる。

第3次の「健やかに育つ環境づくり」では、子育て支援と子どもの福祉について学習する。「子育て支援」については、資料を読みながら育児休業や子育て支援の施設などを説明し、生徒が住んでいる地域にどのような子育て支援の施設があるのかを調べさせて、子育て支援マップを作成させる。「子どもの福祉」については、児童虐待の現状を知らせ、どのようにして児童虐待が起こっているのかをグループで話し合わせ、自分の考えをまとめさせる。また、児童虐待をしそうになった時や児童虐待をしている家庭を見つけた時の対処方法を知らせ、児童虐待に対応できるようにさせたい。

最後のまとめとして、グループで作成した子育て支援マップをクラスで発表し、地域にある施設や使用方法を知ることにより、子育てをしている人や子育てに悩んでいる人などに子育て支援ができるようにさせたい。

### 4. まとめと今後の課題

近年ではライフスタイルの多様化により将来親になることを選択しない生徒もいることが想定される。これからの保育は、自分が子育てをすることだけでなく、社会全体で子ども達を育てていくという視点から、子どもの健全な発達を支援するために社会が果たす役割について理解させる必要がある。今回作成した保育領域カリキュラムは、親の役割や責任、児童虐待および子育て支援などを生徒にじっくりと考えさせることができる内容にすることができた。

教育実践改善研究実習ではカリキュラムを実施することができなかったが、現任校に戻り実際にこのカリキュラムを使った授業を行い、評価を行いたい。また、兵庫県と沖縄県の保育に対する考え方の違いがあると思われるので、沖縄県の高専家庭科教員、現任校の校区にある保育園や幼稚園の保護者および現任校の生徒にもアンケートを実施し、カリキュラムの改善および評価をしたいと考えている。

修学指導教員 増澤 康男、溝邊 和成  
指導教員 永田 智子